

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 374 回 研究会

日時 令和 6 年 4 月 17 日(水) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 40 分
場所 奈良中央信用金庫 3 階 ホール (オンライン併用開催)
テーマ 「プロスポーツ運営」
講師 株式会社バンビシャス奈良 代表取締役 加藤 真治 氏

今回は、株式会社バンビシャス奈良より代表取締役 加藤 真治 様を講師にお招きして、「プロスポーツ運営」をテーマにセミナーを開催しました。冒頭に芳仲会長より” マイナス金利解除、円安等変化の大きい時、地に足をつけた経営をしていきたい。スポーツビジネスを通して組織づくりのノウハウ、ブランディング等自社の魅力づくりを学びたい” と開会のご挨拶を頂きました。

まず、バンビシャス奈良の活動内容についてお話をいただきました。現在 B2 リーグのバンビシャス奈良は、バスケットボールの試合だけではなく、子供たちにバスケットボール教室を開いたり、学校訪問を行ったり地域のために活動をされておられます。

代表取締役の加藤様は、奈良県で生まれ育ち、学生時代にバスケットボールをされておられました。社会人となり、銀行につとめておられた時に友人の仙台でのプロバスケットボールチーム立ち上げに関わられました。仙台市は、野球、サッカー、バスケットボールの 3 つのプロスポーツチームが初めて揃った地方都市であり、スポーツに対する市民の盛り上がりを見近で感じることができたそうです。自分の町の自慢は自分の自慢であり、幸福感に繋がる、プロスポーツはそのスポーツのために存在しているだけでなく、その地域の方の幸せに貢献するものなのだと感じることができたそうです。

営業に出ると奈良について話題に上ることがあっても出身地である奈良のことを知らないと感じる自分がいたそうです。それに反し、仙台の方たちはスポーツで盛り上がり、地元への愛着もある、奈良にもプロスポーツを作れば盛り上がるのではと考え、立ち上げに関わったプロバスケットボールチームを奈良で作ろうとなったそうです。

奈良での立ち上げ直前に東日本大震災がおこり、仙台のチームは活動休止となりましたが、シーズンチケットを買って応援してくださっている方たちは、チケットの払い戻しを受けずにチーム復活を願ってくださったそうです。この出来事は、ファンの心の中にしっかりと入りこんでいる、皆の思いに触れる良い機会だったそうです。

この思いは、バンビシャスの理念として、「バンビシャス奈良は、バンビシャス奈良に関わるすべての人の幸福と地域社会の発展に貢献します」にあらわれています。

最後に、奈良で大規模アリーナを作りたいと熱弁いただきました。プロスポーツだけでなく、イベントを開く等多目的に利用することで求心力のあるアリーナとなり、施設の意義・

意味がでてくるとのことです。

地域の発展のためにというのは、会員の皆様の会社にとっても大変関心の高いテーマですので、講義が終ってからも、多くの質問が寄せられました。加藤先生、貴重なご講義をありがとうございました。

以 上



芳仲会長 ご挨拶



株式会社バンビシャス奈良 代表取締役 加藤 真治 氏